

No	該当分野	意見文
1	基本構想	計画書の冒頭に「新しい公共」という文字があったが、具体的なイメージが湧かない。「平均」ではなくメリハリの付いた計画を大胆に打ち出せば、方向性は見えてくるような気がする。
2	基本構想	人口にしても少子高齢化が進んでいるだけに人口維持はそのまま高齢化につながる話になるので30万人構想を打ち立てるとか、そのために、以前は酒匂川の水を活用した富士フィルムを誘致したように印刷局を活かした工業の誘致など小田原の地の利や今ある文化を活かした産業誘致などが見えてくると面白いと思う。
3	基本構想	「いのちを大切にす小田原」は、人の命だけでなく、全ての生き物の命を大切にすることだと思うが、そのようなことに一切ふれていない。基本的には全ての生き物の命を尊重できる心がなければ、人の命を大切にすることは難しいのではないか。また、医療体制を充実することだけでなく、病気にならないこと、健康に生きることに重点を置いた方が良いのではないか。
4	基本構想	「市民が主体の小田原」では、「地域の課題を地域自ら解決できるような市民の力や地域の力を…」とあるが、これは「行政のサポートのもと自ら解決」ではないのか。
5	基本構想	基本構想では、現状分析・課題と将来像がわかりやすい内容にした方が良いのではないか。
6	基本構想	行政と市民・地域・企業・各種団体が協力してまちづくりする理念は大変良いと思う。
7	基本構想	環境・経済・社会の3つの要素がバランス良く循環し、市民力・地域力が土台となって…は、行政のリーダーシップを加えた方が良いのでは。
8	基本構想	小田原らしさ・オリジナリティな構想が少ないのでは。
9	先導的施策	子育てネットワーク化・地産地消促進・都市の顔小田原とにぎわいの創出策・文化を高める・地域のつながり再生策・各々の具体施策例があると良いのでは。
10	福祉・医療	テレビ番組の中で、電話で悩みを聴くという無縁社会ビジネスが紹介されていたが、ただひたすら悩みの声を聞いてやるというもので、それだけでも相談者にとっては心が軽くなり、やりきれない気持ちから解放されるというものであった。このようなシステムが小田原市にも作り、電話の内容を聞いてくれる(無料、有料問わず)ような担当課があると心のケアに繋がると思う。

No	該当分野	意見文
11	福祉・医療	素案においては都市基盤のバリアフリー化を行うことがうたわれているが、バスの半額割引がない精神障害者には割引制度がないこと自体がバリアーである、水道料金についても箱根町が行っているように精神障害者も割引の対象として欲しい。
12	福祉・医療	精神障害者のノーマライゼーションを推進するに当たっては先行している知的障害者の「座間市キャラバン隊」のような出前講座も必要でしょう。
13	福祉・医療	障害者の就労については、湘南ゴールドを栽培する農園での就労や「ともしびショップ」等で「湘南ゴールド大福」の販売を関係機関と調整し行ってみたいは如何か。
14	福祉・医療	小田原市の自治会共通の障害者自治会費制度を設け一部の障害者に全く情報が手に入らない状態を解消すべきである。50年・100年先まで持続可能な「市」とは弱者を排除した高額所得者で健康な市民だけが住んでいる「まち」ではないはずである。
15	福祉・医療	小児医療費の助成について、6歳まで無料という政策は若い親たちがとても助かっていると聞いたので、続けて欲しい。
16	福祉・医療	ジェネリック薬品の希望は言いづらいので、市をあげてジェネリック運動をすれば、気の弱い人たちには助かる。
17	福祉・医療	「地域医療体制の充実」では、カウンセラー(心理含む)の充実、プライバシーが守られる体制もとても重要だと思う。また、漢方医や針きゅう院、ホリスティック医療を行う機関などとの連携も必要。
18	暮らしと防災・防犯	防災マニュアルについて、適切かつ合理的な見直しを早急に行ない、地域住民に周知させることを詳細施策に明記すべきである。
19	暮らしと防災・防犯	防犯について、犯罪危険度の高い地域(競輪場周辺など)における施策強化を詳細施策に明記すべきである。
20	子育て・教育	ドメスティックバイオレンスに対しては、発見するためのやり方、見つけ保護した時の対応、警察との連携等工夫し、断固とした取り組みをして欲しい。
21	子育て・教育	少子化の現在、緑地区内では子供が減り、子供会が8地区中2地域が休会の状態であり、将来に向かっての地域での子供に対する細かい施策の方針も必要であり、「10 青少年育成の推進」には、子供会の存在についての懸案が抜けている。

No	該当分野	意見文
22	子育て・教育	学校というそれぞれの地域に有る公共施設の一部を地域が一体となり芝生化にトライすることこそが住民基本自治の精神を養う事に繋がっていくと考える。芝生の管理は専門家でなくとも十分に管理していく事は可能であり、持続可能な芝生化の為に、OGP小田原グリーンプロジェクトを立ち上げ全市的に取り組む事が必要である。
23	子育て・教育	長泉町は富士山の麓ということもあり、水質が良く、電子部品系の工場の複数誘致に成功したことも1つの要因ですが、中学生相当までの医療費の免除を行ったことから人口も増加、行政の負担も人口増による住民税の増収、そして企業からの法人税の増収によって医療費の負担分は十分に回収できたとのことである。また思わぬ産物として若年層の転入から出生率の大幅アップとなり、将来への明るい見通しとなったとのことである。したがって、本市においても、医療費の個人負担免除を小学生相当から中学生相当へと拡大してはどうか。
24	子育て・教育	話題の子育て手当ですが現金の支給だと親の他への流用や、在日の外国人の大量の養子縁組等で日本の公金の海外への大量流出の危険性があるので、東京の杉並区のようにクーポン券の配布制(保育料や教材など子供関連の物だけに使用可能)にする。本市でも、子育て手当は現金ではなくクーポン券で支給してはどうか。
25	子育て・教育	市民の資質を向上させるためには教育が必要である。小学校から大学までそれぞれの段階に応じて観光の重要性をうったえるべきであり、ホスピタリティーの精神の向上を計り、大学では観光政策を考え、また観光教育のできる教員の養成をする教育が必要である。
26	子育て・教育	教育の内容として、「目指す姿」に「豊かな地域資源を素材とした教育が進められると共に、「生きる力」を基に、豊かな心と確かな学力、健やかな体の育成を推進します。全ての教育活動を通して子どもの人権感覚、人権意識を高める取り組みを進めます。地域で人を育て、人が地域を育てるという中で、未来を担う子供たちが、社会の一員としての自信と誇りを持ち、其々未来を拓く為に、たくましく生きる力を身につけ、健やかに成長する姿を、市民が実感できる社会をつくります。」と加え、「基本方針」には「地域と行政との「協働と相互信頼」に基づいて、子どもの成長を、学校・家庭・地域と連携し、「共に支えあい、共に育てる」と言う共通意識を高め、自ら学び創る力、社会と関わる力を培い、思いやりの心を持った元気な子供を育てます。また、人権教育を進めるために、全教育活動を通して、一人ひとりの自尊感情を育てる事により、子供同士の豊かなつながりを広げていきます。」と加える。
27	子育て・教育	①子どもの生きる力の醸成 基本的な学力を身につけさせると共に、自ら考え判断し、表現する力を育みます。 また、子どもが自らの存在を肯定的に捉える感情を育み、思いやる心や感動する心など、豊かな人間性を育むとともに、社会への関わりや参加を主体的かつ能動的に出来るように子どもへの支援を充実します。 子どもの発達段階に応じて、全ての教育活動を通して、子どもの人権感覚、人権意識を高める取り組みをします。たくましく生きる為の健康や体力作りを進めます。

No	該当分野	意見文
28	子育て・教育	②小田原の良さを生かした教育の推進 小田原の自然や歴史・文化など素晴らしい地域資源を生かした教育を進め、子ども達が郷土を知り、命の大切さや社会規範をしっかりと伝え、小田原市民であることへの誇りを育みます。
29	子育て・教育	③家庭・地域ともに教育の充実 地域で人を育て、人が地域を育てるという子どもから大人まで「教わる、教える、育ち、育てる」といった学校・家庭・地域が協力して、総合的に取り組む中で、各学校が地域の実情にあった教育活動を展開し、保護者・地域からの信頼に応える学校作りを進め、子ども達の教育を地域ぐるみで支えています。 関係団体・地域のボランティアとの連携・協力を行い、地域や子どもを育む環境作りや地域コミュニティ作りに取り組み、家庭・地域の教育力向上を図っていきます。
30	子育て・教育	④支援教育・相談体制の充実 体罰・いじめ・不登校・虐待などの問題を抱える児童・生徒や、教育上配慮を必要とする児童・生徒に対応した支援教育・相談体制の充実に努めます。 学校の教育活動や学校運営の状況等について評価を行い、その評価結果を公表します。 また、教育現場で、様々な課題への対応については、経験や職種に応じた研修の充実を図り、教職員の資質の向上・指導力を高めるように取り組みます。
31	子育て・教育	⑤子どもの権利を尊重する町づくり 子どもの権利侵害を防止する為に、学校・家庭・地域に対して、子どもの権利について、社会的な認識を高めるように、広報や啓発するように努めます。
32	子育て・教育	⑥教育環境の整備と充実 安全な教育環境の中で、安心して学習できるように、定期的に学校施設・整備を点検し、その安全管理を図ると共に、老朽化に伴う改修・設備の更新を年次的に進め、教育ニーズに応じた学校施設の整備・充実に努めます。
33	地域経済	小田原市は住環境や産業にも恵まれている小都市であり、城下町の特性をもっと生かさないと、伊豆箱根への通過点のまま衰退してしまうと思われる。そこで、セイフティーネットの拡充と観光宣伝の拡充を図り、観光地小田原を目指し、古都鎌倉の様に活気に満ちた都市を目指して、市民にも暮らしやすい街作りをして欲しい。
34	地域経済	最近ではB級グルメでおでんをPRしているが、曾我の梅やみかん等、農産物のPRも拡充して欲しい。
35	地域経済	小田原駅前から小田原城までの道も、もっと北條五代祭りのような賑わいが必要である。

No	該当分野	意見文
36	地域経済	夜の7時頃の小田原の商店街は、シャッターが下りていて買い物に利用できないので、東京や横浜等で買い物をするようになる。そのようなソフト面での検討がより必要かと考える。
37	地域経済	「農業の振興」については、分析も、方角も間違っている訳ではないのだが、4つの詳細施策が実行できたとしても、残念ながら小田原の農業に展望が開けるとは少しも思えない。耕作されない田んぼが増える中、水路の維持管理ができない現状が増えており、整備は必要であるが、日常的管理が既に限界になりつつある。現状を踏まえた、可能性のある方角にはなっていない。
38	地域経済	新しい大きな視野を持った農業の方向性を示す事が行政の役割である。まず、小田原農業が置かれた状況を考えれば、広い一元化された圃場はない。大きく団地化できるような集積がない。大型機械による機械農業が展開される可能性が低い。国際競争力のある農産物を、目指した所で不可能である。この認識を持った上で、どのような方角が取れるかを指し示す役割が、この素案には必要である。
39	地域経済	小田原農業の方向は、地産地消と環境調整能力に絞るべきだ。地域に大きな消費者が存在している。農地面積から言って、全ての農産物は、地域で消費可能である。具体的にいえば、お米は全量小田原市が購入し、学校給食に利用する。周辺の観光地を含めて考え、地域の消費者、周辺観光地を目的にした、農産物に特化すべきだろう。適地適作を考えれば、キューイを小田原農産物として、集中的に力を入れることも可能性がある。そうした方向性が、素案には欠けている。 例えば1、学校給食の地場産農産物の流通構想。2、地域の八百屋さんの引き売り商売、配達の連携。3、朝ドレファーマーの小田原駅前版の可能性。4、地域のスーパーとの連携。5、箱根の観光業への農産物の提供の仕組み。6、果樹の通年摘み取り園の総合的形成。7、新しい農業者を迎え入れる仕組みの構築。
40	地域経済	「農業の振興」では、農地を農地として借りたい人に適切にスムーズに貸せる体制づくりが必要だと思う。また、新規就農希望者への適切で速やかな対応ができる体制が必要。
41	地域経済	旧東海道本線であることを謳い、御殿場線に土・日を中心にSLを走らせ、沿線の活性化を図る(御殿場線は30～60分に1本なので通常の営業に支障は無いと思われる)のはどうか。
42	地域経済	既に平和都市宣言を出している小田原として具体的な行動として国際観光都市として世界に輝くために、まちづくりの指針として、「世界の平和に貢献する国際観光都市をめざして」と謳いあげ、観光という概念を全く新しくすることが必要である。
43	地域経済	観光は最高の平和産業であり、訪れる外国の方々に良い印象を持って帰って頂けば、その国の政府が反日のプロパガンダを展開しても日本人はそんな人ではないと戦争の抑止となる。また観光産業は平和なくしては成り立たない。従って国民は平和の持続に向けて努力をする。

No	該当分野	意見文
44	地域経済	観光は市民の「くらしぶり」が最大の観光資源であり、市民の質が問われる。市民が報徳の精神で譲り合い分ち合い思いやり深く勤勉に働く姿とその生活がかもしたす雰囲気の世界から全国から観光客を引きつける磁力となる。
45	地域経済	輝く観光都市となるには、市民一人ひとりの資質の向上が一番大切である。市民の資質の向上こそが安全・安心の「まちづくり」となる。
46	歴史・文化	小田原市民の文化レベルや教育レベルを上げて欲しい。
47	歴史・文化	小田原城跡について、城跡そのものにかかる保存整備はもちろん重要であるが、周辺地区、特に三の丸地区は、「城跡とともに歴史的・文化的景観」への配慮をすることを詳細施策に明記すべきである。
48	歴史・文化	文化芸術拠点の整備について、「市民ホールを整備する」となっているが、文化芸術振興施策を策定した後、文化芸術拠点としての市民ホール計画を推進することを詳細施策に明記すべきである。
49	歴史・文化	「文化・芸術の振興」では、市民ホールは持ち上がっているが、美術館やギャラリー、図書館はなぜ取り上げられていないのか。
50	自然環境	ごみの適正処理について、「ごみ処理の広域化を視野に入れながら」とされているが、これまでの経緯を見てくるに、あたかも広域化が前提であるかのようなようである。広域化であろうが狭域化であろうが、「ゼロベース」で「資源循環型社会形成」施策を検討すべきである。
51	自然環境	良好な生活環境の保持について、「ペットの飼い主のマナー向上」を図ることは大切なことであるが、「ペット(伴侶動物)と人との共生」に対しての新たな施策の策定に取り組むことを詳細施策に明記すべきである。
52	自然環境	「市民、事業者、行政がそれぞれの役割を認識し、廃棄物などの発生抑制、再使用、再生利用に努め、環境負荷の少ない持続可能な資源循環型社会づくりを進めます。」とあるが、基本方針で書かれた、市民・事業者・行政それぞれの役割とは何か。これが素案において分かりやすく明確に反映されなければならない。市民の役割だけは現状と課題の中に書かれている。市民の役割だけは、ゆるぎなく正しいが実現が出来ないだけである。市民に努力しろの掛け声だけで解決するなら、行政はいらない。市民の役割だけ明確にかけると言う事は、行政の役割に気がついていない証拠ではないか。では、事業者の役割とは何か。これもどこにも書かれていない。ここでは製造者責任の問題を明確にする必要がある。地域主権を切り開くためには、ごみ問題は素晴らしい教材になる。地域行政は何が出来るのか。身近なごみの流れが循環の輪に乗るような仕組みづくり、事業者の位置づけは現在地域により、費用負担という形で違いが大きい。それは事業者の位置が明確にされていない証拠である。

No	該当分野	意見文
53	自然環境	「ごみ処理の広域化を視野に入れながら」となっているが、これはごみの市民の役割と逆行していないか。市民にはごみを出さない、暮らしを提案している。一方広域化して、ごみを暮らしから遠ざける仕組みを提案している。広域化が大前提であるなら、広域化の利点と、市民の暮らしの整合性を考える必要がある。
54	自然環境	農業によるより良い生活環境形成である。水田の役割。都市周辺に農地が点在することの有り難さ。こういうものが、全ての市民の恩恵に繋がるものとなるような、農業の公園的機能の方向性を示すこと。農業地域を特定し、その地域が不利益地域にならないように、手立てを打ちながら、徐々に里地の再生をはかる。そのための法的整備を行う。地域指定を行う。
55	自然環境	「環境共生型の地域づくり」では、【基本方針】の部分に、「その土地の環境に不適切な土地開発や利用を厳しく規制する」ということを入れるべき。
56	自然環境	「資源循環型社会形成の推進」では、【目指す姿】に排出ごみをゼロにすることを目標にするのか、何%減量と目標を具体的に記すべき。また、「ごみ処理広域化を視野に入れる」と書いてあるが、ごみを長距離移動して、処理場のある地域に環境負荷を与える大型処理施設で一括処理するのがなぜ「環境負荷が少ない」といえるのか【基本方針】と相反する。「更なる小エリア毎での処理方法もまた同時に視野に入れ検討する」と付け加える必要がある。そして、廃棄物処理施設の適正な管理・運営は、地元住民を含めた体制で行うべきである。ごみや環境に関しては、現在、状況的にも技術的にも世界的に日々変化してきているので、常に方針を更新して、軌道調整していく必要があると思う。
57	自然環境	「生活環境の保全」では、②に「新たな斎場の整備を進めます」といきなり単発的かつ具体的に書いてあるが、なぜ実施するのかが書いていない。
58	自然環境	ペットの数が増え、まちづくりの視点にも、動物との共生という視点が今後さらに求められて行くと思われることから、素案に、「23 生活環境の保全 ②良好な生活環境の保持 し尿処理や害虫駆除など公衆衛生環境の保持に努めるとともに、ペットの飼い主のマナーの向上とともに、専門家との連携によるペットとの共生を目指した取り組みを進めます。」と加えて欲しい。
59	都市基盤	大学の教授や著名な文化人が住みやすい環境を作るなどそれなりの資源はあると思うので活かしていけたらいいと思う。
60	都市基盤	在来線の普通乗車券だけで乗れる電車(東海道線・湘南新宿ラインの快速アクティーや特別快速、普通電車、快速電車、小田急の快速急行や急行)で小田原～東京・新宿間の所要時間を60分以内に短縮することをJR東日本や小田急に実現させて欲しい。

No	該当分野	意見文
61	都市基盤	「第5次小田原市総合計画・都市基盤・26安全で円滑な地域交通の充実」の詳細施策の中に「安全な通学路の確保」を施策として明記して頂きたい。また、実施計画に当たっては、箱根口交差点の市道の直線化を具体の事業として予算化し、出来る限り早期に実現することを強く要望する。
62	都市基盤	小田原市およびその周辺部を東京や横浜などの大都市への通勤通学者にとって住みやすい地域にしていだきたい。
63	都市基盤	駅前の現在問題の駐車場を最大限に有効活用できるよう、市民の声も聞ける計画にしましょう。
64	都市基盤	小田原に住んでいる方々の多くは、東京や横浜などに通勤されており、鴨宮駅が非常に不便でならない。在来線を利用している場合、平塚止まり、国府津止まり、小田原行き快速など連続で運転されているために、何本か電車を待たされる。新幹線を利用するにしても、小田原駅に夜の30分頃に着く電車は、乗り換えに20分以上待たされる。そこで、JRと市と一緒に利便性を検討する必要がある。
65	都市基盤	快適に暮らせる住環境の形成について、ここに記載の「公共空間や建築物のバリアフリー化など多様なニーズに----」は理解に苦しむ。良好な公共住宅整備と民間住宅の改善誘導についての施策を詳細施策に明記すべきである。(民間住宅は重要な社会的資産であることを認識すべき)
66	都市基盤	「安全で円滑な地域交通の充実」では、道路整備において、つねに歩行者があると想定した整備をするべきだと思う。歩道がなく、車がスピードを出し危ない道が多すぎる。車がスピードを出せるということは、歩道を作るスペースがあるということだと思う。
67	都市基盤	ハード面では、駅前整備が国際観光交流拠点として伊豆箱根富士の三大国立公園の玄関口として長期の計画を見なおして立てるべきである。東口、西口、お城通り再開発に当り鉄道、バス、タクシー、自家用車、集客の結節点としては不十分であることから、西口の駅前広場の現計画も見なおし10年20年のスパンで計画し、その中の第一次計画として今計画に計上すべきである。
68	地域経営	本来ならば、独法化による上病院の機能低下を補完させられる小田原市立病院の「救命救急センター」運営費には、県や周辺の市町からも公費として適正な補助が与えられてしかるべきものである。今一度、県や周辺市町との負担を協働の理念から協議すべきであり、広域連携組織を模索する前に、適正な負担を求めていくべきである。
69	地域経営	市債のかなりの部分を占め固定化している上下水道に関する運営方針を的確に示す必要があり、先送りするだけ後年度にマイナスに影響を及ぼす。

No	該当分野	意見文
70	地域経営	第5次小田原市総合計画を、合併協議によって停止するのか、あるいは編入合併されるであろう周辺市町住民はいずれ策定される総合計画に従うべしとするのか、今まさに明確な判断を示めさねばならない。
71	地域経営	情報の発信と提供について、「積極的」であることはもちろん、必要とされる行政情報をリアルタイムで速やかに提供することが「市民参画」の必須条件であり、行政情報が秘匿されたり廃棄されたりすることを根絶し、すべての市民が快適に行政情報にアクセスできる環境(情報センターなどの施設なども)を整備することを詳細施策に明記すべきである。
72	地域経営	平和施策の推進について、「平和施策を進め」と記述されているが、施策の姿が見えない。小田原市平和都市宣言には「日本国憲法にもとづく恒久平和の実現をめざし、世界から核兵器を廃絶することを共通の願いとしています」とされていることに基づき、核廃絶の平和施策を推進することを詳細施策に明記すべきである。
73	地域経営	新総合計画では地域別計画が大きなものであり、地域経営とまぎらわしいので、「28 協働による地域運営」とし、そこに「1 地域運営」、「2 地域別計画」を入れ、「3 市民活動」、「4 市民参画」は項を追加し、「29 市民活動と協働」としたらどうか。
74	地域経営	市民が主役はいいのだけれど、そこへの道筋を示す事が、行政の役割である。市民の役割は繰り返し行政が言葉として述べるが、行政の役割は少しも精査された経緯がない。市民と行政の役割分担を明確にすることが先決である。行政は行政がやらなくてはできない業務に絞るべきだ。また、素案のいたるところに繰り返し書かれている、「市民の役割」を具体的に示す必要がある。市民が具体的に、どんな段階を経て、具体的に何を行うべきかが明確でない。
75	地域経営	市民にやれない部分だけが行政の役割である。小田原市行政は「市民が行える事は、行政はやらない。」この宣言をすることが第一である。次に「行政がやるべきことは、行政がやりきる。」これも続けて宣言する。行政職員は専門知識を駆使して、頭脳的業務を行うことに専念する。市民の中にある様々な問題に関して、豊富な専門的知識と、たゆまぬ研究をもって、解決の方向を提案する事が役割である。
76	地域経営	「共生社会の実現」では、全て生き物の多様性、人間の多様性、障害者、社会弱者、高齢者、子供、などの権利も具体的に含めて欲しい。
77	地域経営	「広域行政の推進」では、広域にする方が良いものと、しない方が良いものがある。全て一体化する、ということを目指すのであれば、それは良い策とは思えない。

No	該当分野	意見文
78	地域経営	「30 共生社会の実現（さらに付け足して）⑤ペットの数が子どもの数よりも増えていくという社会状況の中で、人の命のみならず、動物の命も大切に、人も動物もしあわせに共生できる社会の実現にのための取り組みを進めます。」と加えて欲しい。
79	その他	行政が策定するとどうしても「最大公約数」のような感じになってしまうのは否めないと思いますが、「小田原らしさ」みたいなものが感じられません。
80	その他	二宮尊徳は、「勤勉である」事ばかりが知られているが、政治家としても役人としてもすぐれており工夫の人でもあったので、教育、農業だけにとどまらない部分でも学ぶべきであり、日本中に誇れる考え方なので小田原の人々が率先して、生かして、実践していけば、よい市になり、よい人間作りができるのではと思う。
81	その他	小田原市に神奈川県西部以外の地域（特に東京都内や神奈川県東部）からの人口流入を増やすべき。
82	その他	小田原市民の美容やファッション、品位に関する意識を向上させて欲しい。
83	その他	小田原市内に住む高学歴層、高収入層を増やして欲しい。
84	その他	総合計画のうち前半5年間の基本計画を示し、まずはその計画に対する市民負担の変動状況をあわせて周知する必要がある。
85	その他	東京都荒川区では「幸福度」を区民が認識でき、安心感を持って生活できる様な政策を実施しているようだが、小田原市民も人から与えられる事ばかり求めず一人ひとりが心の「幸福度」を感じる環境づくりを行政にお願いしたい。総合計画にも、このような「幸福度」も取り入れて頂けたらと思う。
86	その他	新しい公共をつくる、未来に向かって持続可能なまちへ、という小田原市の施策の姿がまったく見えてこない。
87	その他	P.18/61 2.計画の構成で「基本計画は、施策、詳細施策及び未来への投資（先導的施策）により構成し・・・」とあるが、「未来への投資（先導的施策）及び施策、詳細施策により構成し・・・」の方がよいのではないか。

No	該当分野	意見文
88	その他	計画全体的には、曖昧に書かれていて、具体的にどうしていく予定なのかがよくわからない部分が多く、霧の中にいるような印象がある。しかし、妙に具体的にはっきり書かれているものもあり、統一性を持たせた方が良いという印象を持った。
89	その他	総合計画を①基本構想②基本計画③実施計画④地域別計画に区分けし各計画を将来都市像・施策の方向・具体的事業化とわかりやすく構成されている。
90	その他	行政組織のワクを越えた新しい計画が少ないのでは。
91	その他	1のケアタウン構築・10のスクールコミュニティ・15の農産物のブランド化と地産地消策・17の歴史資産の新しい活用策・19の市民生涯学習振興の為の市民と行政の役割・明確・28の協働による地域経営・32の県西地域2市8町地域一体化広域行政・SKYの連携策・御殿場線沿線の地域連携策などは具体策例がもっと入っているとわかりやすい。
92	その他	長期的展望に立った財政予測・人口予測構成などであると良いのでは。（特に実施計画には規模・数値をできるだけ入れた方が良いのでは）
93	その他	長期にわたる壮大な総合計画であるが行政・市民・企業・各種団体など関係者に理解と協力・行動力を得る為の推進策（例…市民による計画推進委員制など）考えた方が良いのではないのでしょうか。
94	その他	産業界において、農業・漁業・林業・製造業・商業・サービス業・行政すべてが観光資源であると自覚し、サービス精神の昂揚に努めることが大切だと思う。
95	その他	基本計画は、内容的にはとても良い方向を示していると思うが、もう少し要領良くコンパクトにまとめられたら、よろしいかなとも思う何となく重なる内容もあり、地域別計画との連動を図ると混乱するのではないか。
96	その他	「安全」とは、誰でも同じように感じ取れる事柄、例えば：「安全策」などがある。「安心」とは、個人其々違ったように感じ取れる事柄で、心に関わる事柄である。例えば：「パトロールをしてくれるから安心するね！」。日頃から、行政が公文書に書き連ねている「安全」「安心」を同系列に並べる事は、本来の日本語から鑑みて、違和感を感じる。特に、子ども達の教育に関する事柄には、正しい日本語で書いて欲しい。